

学力向上フロンティア事業中間報告書

(福島県)

学校の概要(平成15年4月現在)

会津若松市立行仁小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	2	2	2	2	2	15	20
児童数	60	63	72	75	62	75	7	414	

研究の概要

1、研究主題

「確かな力を身に付け、学び続ける子どもの育成」
 ~ T・Tの指導体制を基盤とする個に応じた指導を通して ~

2、研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- | | |
|---------|---|
| 1～6年算数科 | ・算数科において個人差が大きい
・学力テストの結果から「数学的な考え方」の観点が高い |
| 6年理科・社会 | ・T・Tを生かした教科担任制の実践のため |

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 確かな力を身に付け、学び続ける子どもの育成</p> <p>研究の見通し 到達状況を明確にして個に応じた指導を充実し、子どもが学習の成果や過程をより意識できるようになれば、子ども一人一人が学ぶ喜びを知り、確かな力を身に付けることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善 発展的な学習など個に応じた指導のための教材の開発 算数科における少人数指導、T・T指導 評価を生かした指導の改善 学年共同担任制</p> <p>(2) 教員の得意分野を生かした教科担任制の導入 高学年における教科担任制の導入 専門家とのT・Tによる授業の工夫</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 確かな力を身に付け、学び続ける子どもの育成</p> <p>研究の見通し 到達状況を明確にして個に応じた指導を充実し、子どもが学習の成果や過程をより意識できるようになれば、子ども一人一人が学ぶ喜びを知り、確かな力を身に付け、学び続ける子どもを育てることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善 発展的な学習など個に応じた指導のための教材の開発 算数科における少人数指導、T・T指導 評価を生かした指導の改善 学年共同担任制</p> <p>(2) 教科の専門性を高め、T・Tの機能を生かした教科担任制の推進 T・Tによる教科担任制の導入 教師の専門性を生かした指導方法の改善</p>
--------	---

	<p>(3) 実践研究の蓄積と成果の普及 個に応じた指導事例の蓄積 校内研究会、公開研究会の実施 研究集録の作成及び配付(域内小中学校)</p> <p>* 教科担任制では、T・Tの機能を生かすようにし、専科の教師と担任とのT・Tを基本とする研究体制に変更した。</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ 確かな力を身に付け、学び続ける子どもの育成 研究の見直し 到達状況を明確にして個に応じた指導を充実し、子どもが学習の成果や過程をより意識できるようになれば、子ども一人一人が学ぶ喜びを知り、確かな力を身に付け、学び続ける子どもを育てることができるであろう。</p> <p>(1) 個に応じた指導方法、指導体制の工夫・改善 個に応じた指導のための教材の工夫・開発 習熟度別学習、課題別学習等の指導方法の工夫・改善 評価を生かした指導の工夫・改善 少人数指導のための指導体制の工夫・改善</p> <p>(2) T・Tの機能を生かした教科担任制の推進 T・T指導体制の工夫・改善(第5・6学年理科・社会科) 教師の専門性を生かした指導方法の工夫・改善</p> <p>(3) 実践研究の蓄積と成果の普及 個に応じた指導事例の作成 校内研究会、公開研究会の実施 研究集録の作成及び配付(域内小中学校)</p>
--------	---

(3) 研究推進体制

T・T指導は、研修主任及びフロンティア少人数補正、PC補正、教頭が担当し、3～6年生までの算数科と高学年の理科、社会科で実施できるように体制を確立した。平成14年度までは、2名のT・T担当で单元ごとにT・T指導を行ってきたが、今年度は、それぞれの教科で全单元に渡ってT・T指導ができるような体制にした。担任同士のスムーズな連携をねらいとする学年共同担任制を生かし、学級間の学習進度の歩調を合わせながら、必要に応じて学級の枠をはずしたT・T指導を進められるようにした。

少人数の学年会・ブロック会を中心に実践的な研究を進め、2名のT・Tが入ることができるよう時間差で行うなど柔軟な運営をしていくようにした。

平成15年度の研究の成果及び課題

1 研究の成果

算数の学習が楽しいときは、「自分で問題がとけたとき」、「分からないことが分かったとき」と答えている子どもが半数以上を占めており、「分かった・できた」という喜びを感じている子どもが多くなっている。自力解決の場を大切にした指導の成果が現れている。

「グループで学習するとき」が楽しいと感じている子どもが増えている。一斉指導の時よりも自分の意見を述べたり友達の考えを聞いたりできることが理由となっている。少人数指導によって子どもの活動の場や時間を十分に保証してきた成果が表れている。

問題解決においては、集中して取り組み、難しくても最後までがんばろうとする子どもが多く、いろいろな問題にチャレンジしていこうとする意欲につながっている。子どもの学習状況に応じて発展的な学習を積極的に取り入れてきたことで、更に難しい問題に挑戦していこうとする姿勢が育っている。

算数が得意になるためには、「計算の力を確実にする」、「自分の考えで問題を解く」と答えた子どもが増えている。算数の基本でもある計算の力が大切であると考えている。また、公式に数字を当てはめただけの問題解決から、公式の意味をしっかりと覚え、自分なりの考え方で問題を解こうとする姿勢も育っている。

T・Tによる教科担任制では、「できるようになった」と答えている子どもが多く、単元テストの結果もよい結果となっている。以前より学習内容に関心を持ち、自信もついてきている。

「勉強していてもっとやってみたい、もっと知りたい」と思ったことのある児童が約75%を占め、教科の専門性を生かした教科担任制を進めることで学習に対する意欲を高めることができた。

2 今後の課題

T・Tによる少人数指導においても個人差が大きく、個に応じた指導が十分でない場合もあることから、グループや全体で子ども同士の話し合いや学び合いを充実させるための場と機会を授業の中に明確に位置づけ、共に学び続ける子どもの育成をめざしていきたい。

T・T指導による評価にあたっては、T・T担当同士の評価に関する情報交換を密にし、形成的評価や自己評価、相互評価等によってその子のよさや定着の状況を適切に評価できる方法を更に検討していく必要がある。

個に応じた指導をさらに充実させ、一人一人に考える力を身に付けさせていくために、子どもの興味・関心・能力等の実態に適した教材の工夫・開発に努め、補充的な学習や発展的な学習を積極的に進めていきたい。

T・T指導のための打ち合わせや教材研究の時間を確保できるような時間割等の工夫に努め、授業の中で教師が専門性を十分に発揮できるような指導体制の改善を図る必要がある。

課題追究の学習活動等で、学習指導要領以外の発展的な学習を進めていく場合には、単元の最後の時間にチェックカード等を活用するなどして、基礎・基本と発展的な学習内容の区別を明確にして指導していく必要がある。

学力把握のための学校としての取組

定期的な学力調査の実施（年1回＜国語・算数＞ 1月）

定期的な意識調査の実施（年2回 6月、12月）

- * 学力調査では、児童の学力の変容を把握するために年1回実施している。また、児童の意識調査では、算数科における児童の姿勢と指導体制（少人数指導等）、教科担任制に対する意識調査を実施した。

フロンティアスクールとしての成果の普及について

平成15年10月17日（金）研究公開発表会（2年次）

平成16年10月14日（木）研究公開発表会（3年次）

- * 今年度の研究実践を研究集録にまとめ、域内小中学校に配付の予定

- * 習熟度別学習等でコースに分かれ、発展的な学習を取り入れた授業実践を進めている学校が増えてきた。

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無